

# 学びのきおく

ダイヤ工業 代表取締役社長

松尾 正男さん (62)

昭和25年に創業、54年からはサポーターや腰痛の話を聞く機会があった。矢頭さんに経営計画の開発、製造販売を始め、書きの写しをいただき、将来の夢を絵に描くことを学んだ。「深く穴を掘れ。り、専務だった婿養子の私が事業を引き継ぐことになった。先代の作った「経営理念があったので何とかなる」と思っていたが、社長に就任した翌年、それまで伸び続けていた業績が初めて前年を下回り減収減益。大変なショックを受けた。

経営者とは何をしなければならぬのか。悩んでいた時、中小起業家同友会の新春講演会で、健康食品の通信販売で業績を拡大していた「やすや」

の矢頭宣勇さん(前社長)の話が、矢頭さんに経営計画の書き方を教わった。矢頭さんの経営計画の書き方を教わった。矢頭さんの経営計画の書き方を教わった。矢頭さんの経営計画の書き方を教わった。

## リリーフ



息子2人に指導した(平成2年ごろ) 少年団でスポーツ二段。スパー

「これだと強く感じ、それからは一直線にやってきました。もう一人、平成25年に亡くなった父親にとても感謝している。賀陽町(現加賀郡吉備中央町)の実

成の本質になったと思う。自分のために働くのではなく、家族や自分以外のために働くのが当たり前の集団生活。そうした環境で18歳まで過ごせたことが、その後の人格形成の本質になったと思う。

家は兼業農家だった。早朝から草刈りをした後、7時のバスで高梁市内の郵便局へ出勤していた父親は婿養子。筋骨隆々とした肉体を持ち、とにかくよく働いていた。農繁期は母親も2人の兄も手伝ったが、家族全員が労働力。末っ子の私に力仕事は無理なので、よく風呂たきを手伝った。

周囲から必要とされたからこそ長く頑張れたに違いない。小学校4年生からは、兄たちと剣道を習い始めた。先生はおらず近所の大人たちが教えてくれた。自分専用の防具が欲しかったが買ってもらえず、汗と臭いの染み込んだ学校備品で練習に励んだ。高校3年の時、備北2市3郡剣道大会で兄弟3人そろって個人戦で準優勝、3位の成績を収め、果物がこやノートの賞品を持ち帰ると、父親は笑顔で迎えてくれた。息子2人にも小学生の時から剣道を習わせ、私は買ってもらえなかった防具一式を買ってやれた。息子2人は今、私の会社で在籍し、社を盛り立ててくれている。リリーフとしての私の役目は果たせたとと思う。(談)